

## 平成27年度第2回四街道市総合教育会議議事日程

日時：平成27年7月23日（木）

午前11時から

場所：市役所第二庁舎第2会議室

### 開 会

- 1 市長挨拶
- 2 議題
  - (1) 四街道市教育の振興に関する施策の大綱について
- 3 その他
  - (1) 市内小中学校へのエアコン導入について
- 4 閉会

## 第2回四街道市総合教育会議会議録

日 時 平成27年7月23日(木) 午前11時～午前12時15分

場 所 四街道市役所第二庁舎第2会議室

出席者 市長 佐渡 齊  
委員 長 花井 育代  
委員 長 職務 代理 者 平野 穎範  
委員 員 荻津 雅史  
委員 員 田中友季子  
教 育 長 高橋 信彦

出席職員 教 育 部 長 豊田 充  
教 育 部 次 長 小高 博信  
教 育 総 務 課 長 荻野 武夫

傍聴人 1名(男性0名 女性1名)

### 開会宣言

### 教育部長

○教育部長 それでは、定刻になりましたので、佐渡市長よろしくお願いたします。

○市長 本日はお忙しい中、四街道市総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、着座にてご挨拶させていただきます。

5月に行いました前回会議に引き続き、本日で2回目となりますが、今回はこの会議の当初の目標でございます大綱の策定につきまして、皆様方とご協議しながら、決定したいと考えております。そして、その他で私の目標であります「子育て日本一」、これに向けた施策の一つでもあります「小中学校のエアコンの導入」につきまして、皆様のご意見を伺いたしたいと思います。

この総合教育会議についてですが、市長は予算の編成や執行、それから条例の提案などの権限を持っていますが、教育委員会は政治的な中立性、継続性、安定性を担っています。それぞれの役割と課題があるわけで、私は、この会議の場を通して、教育委員会との意思疎通を図り、地域教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層実りのある教育行政の推進を図りたいと考えています。どうぞよろしくお願申し上げます。

それでは、議題に入らせていただきます。

議題1、四街道市教育の振興に関する施策の大綱についてを議題といたします。

それでは、事務局より説明をお願いします。

教育総務課長、お願いします。

〈提案理由の説明〉

○**教育総務課長** それでは、ご説明をいたします。前回の会議で協議していただきましたので、「四街道市教育振興基本計画」に沿った形でこの教育の大綱を作成いたしました。資料1ページをご覧ください。この大綱の作成にあたっての市長の考え方を示した文章となっております。

次のページの大綱案といたしまして、「四街道市教育振興基本計画」の「基本理念」と「四街道市の教育が目指す姿」を記載しております。期間につきましては、特に明記はいたしませんでしたが、教育振興基本計画の基本理念等が平成25年から10年間としておりますので、この大綱の期間は34年度までということになるかと思えます。

以上でございます。

#### 【質疑応答】

○**市長** 大綱の作成にあたりましては、前回、教育委員会で平成25年3月に作成されている教育振興基本計画を基本としたいと私の考えを述べさせていただきました。また、各委員の皆様からのご意見などにおきましても、教育振興基本計画を基本とすべきだというご意見をいただきました。

私はこの教育振興基本計画を非常に高く評価しており、この教育振興基本計画に基づき、四街道市の教育施策が着実に進められると思っております。教育振興基本計画を政治的な中立性、また継続性の担保とする意味からも、この「四街道市教育振興基本計画」に定めております「基本理念」、そして「四街道市の教育が目指す姿」、これをもって「四街道市教育の振興に関する施策の大綱」としていくことを本日ご提案させていただきました。

それでは、各委員の皆様からご意見を伺いたいと思えます。

花井委員長、お願いします。

○**花井委員長** 前回も申し上げましたが、教育振興基本計画を策定するにあたり、長い期間をかけたということ、また手前味噌ではございますが、大変良いものができたと自負しておりますので、そのまま大綱として使っていただけると大変うれしく思います。

○**市長** 実は昨日、千葉県知事と年に1回の懇談会がございまして、印旛地区の首長と香取地区の総勢15人ぐらいで、地区ごとに知事と懇談をしました。1市あたりの要望枠が2つまででしたので、余談にはなりますが、1点目はホームドアの設置について要望いたしました。四街道市には千葉盲学校があるのだから、四街道駅のホームにホームドアを設置してほしいと言い続けております。また、一日の利用乗客が10万人を超えるところはホームドアをつけるという国土交通省の方針が今年の2月に閣議決定されました。現在、四街道駅の一日の乗客は2万1,000人ぐらいで、ホームドアの設置には該当しませんが、全国には54校程度の盲学校がございまして、国土交通省も優先して盲学校の最寄り駅には設置するという方針を出しておりますので、なぜ千葉県で唯一の盲学校である千葉盲学校の生徒たちのために設置してくれないのですかということをお話してきました。ただ、普通列車のほかに15両編成の快速電車があったり、特急も止まったりとドアの位置が変わってしまうという問題があり、技術的に簡単にはつけられないという事情が四街道駅にはあります。千葉県は補助金を持っており、JR千葉支社に対して支出できるのですが、去年も今年もJRはホームドアを一件も設置しなかったため、県は交付しておりません。四街道駅のホームドアについては、衆議

院の国土交通委員会で議論になりまして、今がチャンスだということで、県知事に直接お願いしてきました。

二点目はスクールカウンセラーの増員についてです。四街道市の平成27年度予算編成にあたっては、スクールカウンセラーの増員やスクールソーシャルワーカーに関して、四街道市の予算でもっと増員してほしいという予算要望があって、教育長と予算査定において議論させていただきましたが、財政的に厳しい状況です。今文部科学省はスクールカウンセラーについては、都道府県に対し補助金を出し、都道府県が市町村に派遣します。そして、数年前まで都道府県に対する補助率は2分の1でしたが、3分の1に削られてしまったので、千葉県も厳しい状況にあります。森田県知事からは、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置し、子どもたちをすくすく育てていくという四街道市の教育方針はよく分かるが、千葉県が財政的に厳しいという点と、いじめをはねのけるたくましく生き抜いていく力を四街道市においても頑張ってもらっていただければと言われました。教育振興基本計画の「基本理念」である「明日を切り拓く、心豊かでたくましい人づくり」にはこの世の中を力強く生き抜いていく、そんな精神があると私は、強く共感しているところです。

○**教育長** 全く私も同感です。やはり子どもを守るという部分もありますが、将来にわたりずっと守られているわけではなく、いつかは自立をして、自分の力で人生を切り開いていかないとはいけません。子ども自身がそういう困難を乗り越える力を身に付けていかないとはいけません。子どもが自分の人生を切り開けるよう育てていかなければ、日本や四街道市の将来は危うくなりますので、今市長がおっしゃったとおり、たくましい子どもを育てることが大切だと思います。反面、先日岩手県でいじめを苦しめての自殺がありました。彼は担任にしか相談していなかったのです。自分を支えてくれる人が担任以外にいなかったということです。担任だけでは支えきれません。現在、四街道市の中学校には全校にスクールカウンセラーを配置しております。また小学校においても、他市に先駆けて3名のスクールカウンセラーを配置しており、非常にいい体制となっております。

○**市長** 今千葉県から派遣されたスクールカウンセラーが1名、あとは市が独自の予算で2名というのが現状です。高橋教育長からもっと増やしてほしいとの要望もありましたが、実際に予算がなく十分な配置ができていない状態であり、非常に申し訳なく思っております。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた生きる力を育成することが、「基本理念」の1番目なのです。やはり生き抜く力、生きる力、いじめをはねのける力を子どもたちに教育の中で身に付けさせることが大切であるということを使うのは簡単です。しかし、現実的にどうやったらいいのか教育現場は苦労されているのではないかと思います。その理由としては、子ども一人一人に個性がありますので、一人一人に対応した教育も大切ですが、これもまた言うのは簡単であり、現場は大変苦労されていると思います。

荻津委員、何かございませんか。

○**荻津委員** 私は、教育のいろいろな施策を手厚くしていくことは大変大事だと思います。教育は今後の日本を方向付けていく柱の一つになります。そもそも、教育そのものはすごく手間暇がかか

り、時間がかかるものだと思います。そのあたりは、ほかの施策と少し違う面があるので、全体の予算を考えながらも、手厚くしていくことが必要だと思います。また同時に市長と教育長がおっしゃったように、子どもをたくましく育てるのはとても大事だと思います。基本になるのはまず家庭教育であり、その家庭教育をしっかりとするための支援をしてほしいです。家庭ではできないところをいかに地域活動や学校教育の中で補いながら、全体で子どもを育てていく環境づくりが大切です。そういう意味では、四街道市はまだ自然が豊かで、里山も存在し、四街道市の良いところをもっといっぱい生かしながら、子どもたちがいろいろな体験をしてたくましい力を育んでいけたらと思っています。昨日気になるニュースがありました。最近の若者の間に人と付き合うことをしない、人を避けている傾向が出ていると報道していました。そのテレビ番組では、女性が男性と付き合うことを非常に嫌い、一人のほうがか面倒臭くなくて良いといったことを理由に挙げていました。マスコミが少し大げさに取り上げていたかもしれませんが、割合を見てもそういう人が増えてきているようです。食事をする場所も、一人一人がつい立てのあるカウンターで食べるお店が流行ってきているといいます。そういう意味では社会全体の中にもつながりを求めようとしない傾向も出てきているようなので、子どもたちの中にも本当のつながりを作るための施策も行えれば良いなと思います。

○市長 田中委員はいかがですか。

○田中委員 私も市長や教育長のお話に賛同します。やはり子どもがいじめをはねのける力を持つというのは、家庭と学校との情報の共有がとても大切だと思います。今お母さんたちというのは言いたいことがある時には先生に、先生たちも言いたいことがあると子どものお母さんたちに言うことが多いと思いますので、できるだけ開かれた、積極的に意見交換ができる学校づくりを再度進めたいと思います。

○市長 いじめの問題で保護者がなぜ子どものSOSに気付かないのかということ、私は少し疑問に感じてしまいます。そして、保護者が、子どもがSOSを発信しているのを担任や学校が気付いていないと発言しているのですが、保護者も子どもの状況を把握していれば防ぐことができたのではと感じています。聞くところによりますと、いじめに関するアンケート調査は各学期に合わせて児童生徒に対して行うことになっていますが、保護者に対しては年に1回しか実施していないそうです。保護者は、お忙しいでしょうから年に1回がいいかと思いますが、保護者にとっても各学期ごとに実施したほうがいいのかも思ったりもします。今回の矢巾町の報道を見ても、やはり家庭ではどうだったのか。マスコミは個人情報があるから家庭のことは報道できないのかなとも思うのです。

平野委員、お願いします。

○平野委員 私からは二点ございます。一つは、森田県知事が言っていた生き抜く力、はねのける力は、いじめの問題と別であり、ここに書かれている変化の激しいこれからの社会を生き抜く、確かな学力、豊かな力に関しての力だと思います。21世紀には少子化問題、環境問題、エネルギー問題というようなたくさん課題があると思うのです。その課題を今の子どもたちは一つ一つ解決し

て生きていかなければなりません。大切なことは子どもたち一人一人に問題解決をしていく能力を身に付けさせていくことです。

それともう一つは、いじめの問題が出てきた時に、今回の岩手県の場合には、一点欠けている部分があるのかもしれませんが。義務教育の義務は誰が責任を負うのかというと、それは保護者が責任を負わなければなりません。子どもがどのような状況かを記載した生活ノートがあった場合、学級担任は必ず保護者へ連絡をしなくてはならないし、それがどんな状況であったかということ、学校全体で共有することが大切です。いじめへの対処というのは、1対1でやることはできないと思うのです。全校の職員がそのことに関わって共有していくことが必要です。今回四街道市のいじめに対する取り組みというのを全校で共有して取り組んでいき、各学校では、いじめは必ずあるということ、前提を見ていくことが必要です。先ほどから言われているように、いじめられたらねのける力ということも必要だろうと思うのですが、今の子どもは精神的な弱さのために難しくなっています。そこで教育長がお願いしてきたスクールカウンセラーは、子どもの悩みや相談を受けとめてくれる第三者であり、教員に相談できない場合に頼れる第三者です。スクールカウンセラー、学校用務員、学校事務、栄養士、これら第三者を含めた学校関係者で教育にあたるというのがチーム学校であります。学校のチーム力というのは教員のチームワークではなくて、学校を取り巻いている教員以外の者も全部集まってチームとして一人一人の子どもを育てていくことがチーム学校だと思います。

○市長 荻津委員お願いします。

○荻津委員 皆さんと全く同感なのですが、いじめの問題などでは、例えば、子どもが使う言葉に対する考え方において、きちんと共通理解をもって対処することが必要だという気がするのです。子どもというのは、大変な状況にあると、平気で「ぶっ殺す」とか、「てめえ死ね」とか言います。教師に対しても同様に激しい言葉を使うことがあって、教師や保護者も子どもの激しい言葉に慣れてしまいがちです。子どもは本当に言葉どおりの意味で使っているわけではなく、「ぶっ殺す」と言って、本当に殺そうと思っているわけではありません。激しい自分の感情をそういう言葉で表現することがあります。逆に、毎日のいじめに対して、「いじめられている、助けてほしい」というSOSを出している者に対してもときに鈍感になってしまいがちで、そのうちに何とかなるという気持ちが出てきてしまうことがあるのだと思います。そういう激しい「死ね」という言葉に対しては、保護者や教師は、まずその子どもの本音をよく理解し、しっかり受けとめてその感情を和らげる対応や指導が大切です。しかし、本当に小さいSOSであっても、「助けて」、「いじめられて死にそう」という子どもに対しては、敏感にアンテナを高くし、対処することが、一人一人の教師や保護者にとっても大切だと思うのです。今回の場合には、担任一人で受けとめないで、同じ学年の先生や管理職の先生にも相談するなど皆さんで情報を共有し対処していれば、違った結果になったのではないかと思います。

以上です。

○市長 教育長、お願いします。

○教育長 いじめの問題に関して、私は、報道のあり方の一部に問題があったと思います。学校のみ責任を問うような報道をすると、方向性を誤るのではないかと考えています。いじめというのは、集団の中で発生しているわけですが、家庭ではそういう集団の中での生活が分からない部分もあるので、当然集団生活の場である学校の責任も問われるかとは思いますが、しかし、学校のみ責任をクローズアップして取り上げることについては、報道の仕方として、私自身は非常に疑問を持っています。

以上です。

○市長 平野委員お願いします。

○平野委員 今回の岩手県のいじめ問題は、生徒と1・2年生時の学級担任との相談内容やいじめ問題について、父親とのコミュニケーションが十分にとれていなかったと思います。生活ノートの内容を父親に知らせたり、学校全体でいじめの実態を共有していれば、今回のような学校責任をクローズアップされた報道にならなかったと思います。

○市長 四街道市の教育委員会の方針では、教育振興基本計画に沿って着実に教育施策を進めているということです。今回こういった内容のご提案をさせていただきましたが、ほかにご意見はございませんでしょうか。

花井委員長、お願いします。

○花井委員長 施策の中の教育は義務教育に偏りがちではありますが、市民との情報交換を行ってみると、すべての市民に対する教育施策を望む方が多くいらっしゃると思うのです。この「基本理念」の中の3番目に「充実した人生を送るために、自己実現のための資質と能力の向上に日々努める」という言葉があります。やはり自己実現に熱心な方々は年齢を問わずご自身の人生を自分で作っていくのだという気持ちを持って、自己実現を実践していくことも重要と考えております。教育振興基本計画はすべての市民に対する理念を網羅しています。

○市長 ほかにご意見はございませんか。

それでは、議題1の四街道市教育の振興に関する施策の大綱について、今回ご提案させていただきました「四街道市教育振興基本計画」の中の「基本理念」と「四街道市の教育が目指す姿」についてを本市の教育行政の大綱としたいという提案をご承認いただけたということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○市長 それでは、「四街道市教育振興基本計画」の中の「基本理念」、それから「四街道市の教育が目指す姿」を本市の教育行政の大綱と定めたいと思います。

続きましてその他に入ります。今日は、各委員の皆様方に「四街道市内の小中学校のエアコンの導入」に対してご意見を伺いたいと思います。四街道市は、平成27年度当初予算で四街道市内の小

中学校にエアコンを設置するという事で予算措置をしております。内容につきましては、普通教室304、特別教室122の合計426教室にエアコンを設置する予算を計上させていただきました。トータルで13億ぐらいになるわけですが、国から補助金をもらうという話で予算を組んでおりました。しかし、千葉県内の市町が小中学校にエアコンをつけるということで文部科学省に昨年予算要望しておりましたところ、全ての予算がつきませんでした。これは四街道市だけではありません。なぜ予算がつかないのかといいますと、3.11の東日本大震災以降、平成27年度までに全国の公立の学校、小中学校、高校も含めて、耐震補強や耐震化を100%にするといった文部科学省の方針によるものです。27年度に100%にしたいのですが、現実的には全国的に100%になりません。千葉県の平均も約95%しか耐震化を実現できないということで、今年度の文部科学省の都道府県、市町村に対する補助金も大半が耐震化という部分に予算がついています。ですから、小中学校や高校の環境整備の中にエアコンが含まれますが、四街道市の場合ですと、八木原小や千代田中の大規模改修も環境整備になってしまいます。こういった環境整備の予算を文部科学省は予算としてとっていません。そのため、平成28年度の目標も耐震化100%になり、国の予算配分も耐震化中心になります。

このような状況の中で、国の補助金がつくまで小中学校のエアコン設置を先延ばしするのか、それとも四街道市が単独で国の補助金をもらわずに実施するのかということです。市の中でも、教育委員会や財政部局で協議を進めているところで、国の補助金の採択を受けてから小中学校のエアコンを設置していくのか、財政的に何とか四街道市が持ちこたえることができるのかなどを検討しております。

一つの方法として、小中学校にエアコンをリースとして業者に設置してもらって、市が毎年のリース料で払っていくという方法があります。この方法は、国の補助金の制度では執行できず、リースでやる場合は単独で実施してくださいという国の方針です。併せて言うと、リースで実施していくと入札等々安くなるのです。ですから、市といたしましては、国から補助金をもらって、そして起債を借りて、その起債を毎年元金と利息を返していく方法が一番確実なのですが、国の補助金をもらわないで、最初からリース料を払っていくという方法も選択肢としてあります。そうすると、買い取りを行った場合とリース料とを比較検討しなければいけないのですが、当然毎年起債を返還していくほうが若干安くなります。ただ、それは若干なのです。少し無理をすれば、リース方式で実施していくことは可能だという判断を私はしておりますが、今日各委員の皆様にご意見を伺いたいのは、国の補助金、つまり交付金が措置されるまで、この事業を先延ばしすべきなのか、それともリースという形で市の単独で実施していくのか、そういったご意見を伺いたいと思います。

それから当初の予定どおり、特別教室も含めて設置してしまいますと、財政的にはかなり負担がかかるので、できれば普通教室のみに絞ることについてもご意見をいただければと思います。

また、普通教室の基準なのですが、例えば算数、数学の授業を5人とか10人集めた少人数教室で行うのも一応普通教室なので、エアコンをつけてもらいたいというのが学校現場の意見として当然あります。しかし、申し訳ないけれども、5人とか10人の少人数教室であれば、なるべくエアコン設置の対象から外してもらいたいというのが財政部局の意見です。

今日はかなり大ざっぱな議論になろうかと思いますが、率直なご意見を伺えればと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

平野委員お願いします。



○平野委員 近年非常に気候の変動が激しくて、以前でしたら夏休みに入る前に日増しに暑くなっていく気候だったのですが、今は5月から30度といった真夏日を迎える中で、子どもたちに安定した確かな学力をしっかりと身に付けさせ、落ちついて勉強をさせるという課題に対して、教室環境を整えてあげなくてはいけないと思っています。予算状態は非常に厳しい状況だと思うのですが、ぜひ教室でのエアコンを導入していただければありがたいと思いますし、切に要望したいと思います。

○市長 田中委員、お願いします。

○田中委員 委員そして小学生の親としてなのですが、5月あたりから9月、10月ぐらいまで30度近い暑い中で子どもたちは汗だらだらの状態です。集中力は欠けてくるし、先生の話は耳に入っていない状態で、なかなか難しい状況だと思います。私の娘は中央小なのですが、よく中央公園に緊急ヘリが降りてくるのです。緊急ヘリが降りてくると、暗幕や窓を閉めて、教室全部を閉め切り状態の汗ばむような中で学習をしなくてはならないので、できるだけ早目に設置していただくと子どもたちは助かると思います。

○市長 荻津委員、お願いします。

○荻津委員 私も基本的にはエアコンをぜひ設置していただきたいと思っています。もし反対する人がいましたら、実際に夏の暑い時に、教室に行ってもらえれば分かると思います。子どもたちが暑い中、湿度の高い中で汗をかいて勉強しています。そういう中で学習するのは、大変ひどい状況なのではないかと思っています。ただ、国の施策が耐震補強を優先することですので、それはもう仕方がないことです。基礎的な体力を作り、学力を付けていくためにも、今の大変過酷な状態に対して、市独自でも、エアコンを設置していくのは非常に大事なことでないかと考えております。

○市長 私は教育長と2人で小学校の給食を食べに行くのですが、四街道市議会が6月と9月にありますので、大体7月、8月、それから10月、11月と議会の日程を避けて行っています。教室が非常に暑いことはよく分かっているのですが、和良比小に行った時に、子どもから手紙をもらいました。

その子は「地球温暖化が進んでしまうので、エアコンをつけるのに僕は反対します」という意見でした。ほとんどの子どもがエアコンを設置してもらいたいというのですが、中にはそういう子もいて、逆にうれしくなりました。正しいといえば正しいのですが、その子の手紙への回答としては、「厳しい夏がきていますので市のお金のことあるとは思いますが、エアコンは健康維持のためには必要です。ただ、エアコンを設置したからといって、やはり地球温暖化を防ぐために努力をしなければならぬので、併せて適切なエアコンの使い方を学校のみinnで話し合っ、エアコンをうまく利用するにはどうしたらいいのかといったことを考える必要もあるのではないかと思います」というような趣旨の回答をさせていただきました。また、エアコンを設置してくれれば夏休みが短くてもいいとか、学校に毎日来るといふ子も中にはいます。

ほかにどうでしょうか。花井委員長、何かございますか。

○**花井委員長** 日程的なことを質問したいのですが、もし仮に、リース方式で普通教室にエアコンが設置されると、実際に子どもたちはいつから使えるようになるのでしょうか。

○**市長** 実は四街道市の平成27年度小中学校のエアコンの予算は「工事請負費」として予算を付けているのです。ところが、リース契約になると平成28年度から「使用料及び賃借料」という形で27年度予算を減額しなければならないのです。9月議会で債務負担行為の補正予算を組みたいと思っ  
ているのですが、予算が成立した場合、10月からの入札等になります。実際の工事の流れはどうなるのか説明をお願いします。

○**教育総務課長** それでは、ご説明いたします。市長のご説明どおり、9月議会で予算をとりまして、10月以降から契約となります。工事の中身ですが、リース契約ですのでどうしても工事の準備期間等も絡んできます。そのため、実際に学校での工事が行われるのは、春休みからゴールデンウイークの休みを利用して設置するというのが今考えているスケジュールです。そうしますと、来年の6月ぐらいから使用することは可能であると考えております。

○**市長** 花井委員長お願いします。

○**花井委員長** このリース契約が行われた場合は、来年の6月頃から子どもたちはエアコンのある環境で勉強ができるということですか。

○**教育総務課長** はい、そうでございます。

○**花井委員長** 暑い中、エアコンが設置してある環境の中で勉強に集中できるということが来年度から保証されるのであれば、早目に実施してほしいと思います。

○**平野委員** 我々は教育委員の立場ですが、子どもたちの教育の意味だけでなく地域の人たちが使用するという面もあると思うのです。私が以前学校に行った時に、社会福祉協議会関係の地域の福祉給食ということで、お年寄りが冷房のない教室で、学校給食を食べていました。工事現場用の扇風機をかけていたのですが、お年寄りですので暑さで食べたものを戻してしまうというのがありました。災害やいろいろな場面において学校を使うということも含めて、早い時期に実現していただければ、子どもたちや大人にとって良いのではと思います。

○**市長** 例えば北中学校では社会福祉協議会のボランティアの人たちが学校の給食をランチルームで一緒にお年寄りと一緒に食べています。事務局にお聞きしたいのですが、今社会福祉協議会でお年寄りのためのランチルームを利用した会食を行っていますが、その場所というのは、大体冷房が入っているのですか。

○**教育長** 全てに冷房が入っているかは、調査していませんので分かりません。部長、分かりますか。

○**教育部長** エアコンがランチルームに全部入っているかどうかは把握しておりません。

○**平野委員** 多分ランチルームというのは、多目的室にあたると思いますので、現状を見ていただきたいとお願いしたことがあります。

○**教育総務課長** 全てではないのですが、ランチルームか多目的教室のどちらかには冷房が入っているかと思います。

○**市長** では、地域の自治会やPTAの活動、あと社会福祉協議会のいろいろな活動場所において、エアコンが設置されているのかどうかを調べて、総合教育会議の中でそういう地域の方々の意見を教えていただけたらと思います。

荻津委員、お願いします。

○**荻津委員** 今市長がおっしゃいましたが、エアコンを使うにあたってのマナーも、ぜひ徹底したほうがいいのではないかと思います。温暖化対策の目線でも市長はおっしゃいましたが、使っているときはドアを開け放しにしないなど、なるべく効率的に冷えるようにすること、時間を設定して使うことなども含めて考えていく必要があるかと思います。たまにはエアコンを使わない日を月に1回程度設定するなどして、エアコンがない暑さを体感し、エアコンの大切さ、使う者のマナー等について、現場の先生方を含めて考えていくことなどがあってもいいのではないかと思います。

それから、今後普通教室だけでもエアコンの設置を実現したいと思います。できることならば特別教室の中でも例えば、多くの子どもたちが使う図書室や音楽室のように普通教室に近い教室がいくつかありますので、そちらのほうもできるだけ早く設置してほしいと思っております。

○**平野委員** とにかく予算が実現していただけることを望んでいます。

○**市長** 実を申しますと、経常収支比率というのがありまして、臨時的に入ってくるお金を除いた、市民の皆さんからの税金、例えば土地や家屋の固定資産税など、常に安定的に入ってくる歳入のうち、経常的に支出される額は、95%以下におさえなければならないのです。経常経費として一番大きいのが市の職員の給料です。こちらは、職員がいますので何があっても、毎月の給料を支払います。また、福祉関係のいろいろなサービスや給付金を経常的に払っていくものもあります。それから教育委員会ですと、今回エアコンを設置すれば、恐らく毎年1,000万近い光熱水費、電気代、ガス代を払わなければなりません。経常的に入ってくるお金に対して、経常的に出さざるを得ないお金が95%を超えてしまうと、県からの指導が入ってきます。正直に申し上げますと、平成25年度の四街道市の経常収支比率は93.3%でした。26年度決算が今ちょうどまとまってきたのですが、98%まで悪化する見込みです。その要因の一つは子ども医療費です。子ども医療費は、小学校3年生までは無料でしたが、今中学3年生まで無料となったので、それに毎年大体3億5,000万円支出しています。また、教育関係だと少人数学級の先生方の17人を市が単費で雇っています。そのほか小中学校に関しては、生徒指導の補充教員を市の単独で8人雇用していますので、そういったお金も支出せざるを得ません。そういう意味で今四街道市の財政問題は大変厳しく、教育委員会の担当課長か

ら財政課へ折衝するとき、頑張ってもらいたいです。恐らく国の補助金がつくのはあと3年先になると思います。ですから、逆にエアコンを設置するのだから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは現状のままにならざるを得ないということにもなります。

○**教育長** 少し余談にはなるのですが、四街道市の耐震に関しては、非常に国の方針を誠実に実践していると思います。校舎と体育館に関しては、平成26年度には100%達成し、今年度は武道館の改修に着手します。近隣の市においては、まだ80%、90%の市もあるのですが、誠実に実施してきた四街道市に対してこういう扱いをし、計画的に実施してこなかった市に対しては、重点的にお金を投資するというのは逆ではないかと思っていました。誠実に実施している市に対しては、もっと優遇措置をとるべきであろうというのが、私の個人的な感想です。

○**市長** 今の政権は2020年までに国と地方のプライマリーバランスを黒字にするという方針です。だから本当に厳しく、四街道市では、交付税や臨時財政対策債をあわせて、平成26年度は4億5,000万円の歳入減がありました。国と地方の借金が1,000兆円を超えていますので、現政権は健全な財政運営を地方に迫ってきています。厳しい状況ですが、何とか踏ん張ってエアコンを設置したいと思います。

委員の皆様からいろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。このエアコンを導入するにあたっては、市の財政運営を考えると、かなり批判も出ると思うのですが、子どもたちの教育の質や教育環境を考えると絶対に必要だと私は思います。皆様方からご意見をいただいて、大きな自信と励みになりました。ありがとうございます。

それでは、ほかに各委員の皆様から何かご意見をいただきたいと思います。何か質問などはございませんか。

荻津委員、お願いします。

○**荻津委員** 前回の教育委員会会議の中でも、たくさん意見が出ているのですが、四街道市は、印旛郡市や千葉県の中でも非常に優れた施策が行われています。今回のエアコンでもそうですが、市によってはアンケートをとって実施するとかしないとかもめているところもあります。このような状況の中で、子どもの立場に立ち、先進的な施策が進んでいる四街道市の現状を、もっともっと新聞やテレビに広報して、宣伝していくこともいいのではないかと思います。

○**市長** 四街道市は、PRが下手で、苦手ですので、ご指摘ありがとうございます。

ほかに皆様からありますか。

なければ、以上をもちまして、第2回四街道市総合教育会議終了をさせていただきます。

それでは、事務局からお願いします。

○**教育部長** 皆様ありがとうございます。また、市長におかれましては、進行の方お疲れ様でした。次回の開催予定につきまして、事務局より説明をさせていただきます。

○**教育総務課長** それでは、次回の総合教育会議につきましては、まだ具体的に日程が決まっておりませんので、開催が決まり次第、委員の皆様にご通知申し上げます。また、市政だより及び市のホームページにてお知らせをいたします。

以上でございます。

**閉会宣告**

**教育部長**

○**教育部長** それでは、本日の日程は、これで全て終了いたします。本日はありがとうございました。

署 名

四 街 道 市 長

佐渡 齊

---

四街道市教育委員会教育部長

豊田 充

---